

第5章 自動運転社会を見据えた都市づくりの推進に向けて

5.1 自動運転技術の開発動向を踏まえた在り方のバージョンアップ

現在、国内外で限定地域内での無人自動運転サービスなど、自動運転技術の早期社会実装に向けた実証実験等が行われ、技術開発が進められています。

また、自動運転車が公道上で運行可能となるための制度についても検討が進められています。

都では、こうした開発状況等の動向を継続的に調査・検討し、都内の各自治体における都市交通計画等に反映できるよう、適宜、本在り方をバージョンアップしていきます。

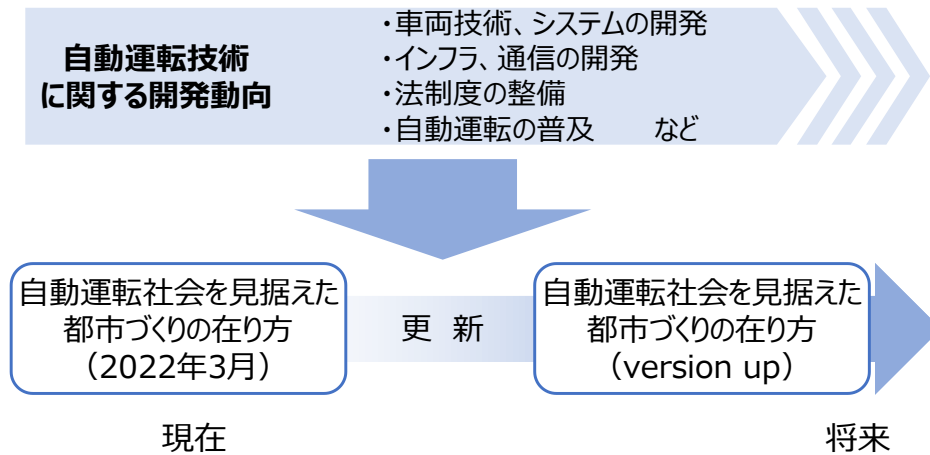


図 5-1 在り方のバージョンアップのイメージ

5.2 自動運転社会を見据えた都市づくりの推進

自動運転社会を見据えた都市づくりを推進していくため、自動運転車の普及により影響を受けると見込まれる第4章で示した交通施設（道路空間、駅前空間、駐車場）と交通サービスについて、今後も次に示す取組を進めていきます。

■ 交通施設（道路空間、駅前空間、駐車場）

第4章の都市づくりへの展開に向けた基本的な考え方に示す方策を活用した道路空間、駅前空間、駐車場の整備を実現していくに当たって、2030年頃までに自動運転車が徐々に普及し始め、2030年頃までの関係法令等の改正や基準化等を想定します。このため、地域の特性を踏まえながら制度上や技術的な課題等の解決に向けた検討を進めていきます。その中で、必要に応じて関係法令の改正や基準化に向けた国への要望も行っていきます。



図 5-2 交通施設に関する今後の検討の方向性

■ 交通サービス（自動運転技術を活用した交通サービス）

2040年代における都内全域での自動運転車の普及を見据えて、都内において8地区程度（各地域区分で2地区程度）でレベル4の自動運転サービスを2030年頃までに先行的に導入することを目指し、都内の各自治体や交通事業者等が地域のニーズを踏まえた自動運転サービスに関する取組を推進していくために都は取り組んでいきます。具体的には、都内で自動運転サービスを導入する上で課題となる項目について検討を行い、都内の各自治体や交通事業者等による先行的な自動運転サービスの導入に向けた取組の支援策を検討していきます。そして、都内での地域ニーズを踏まえた自動運転サービスの先行的な導入事例の水平展開を促していきます。



図 5-3 交通サービスに関する今後の検討の方向性